

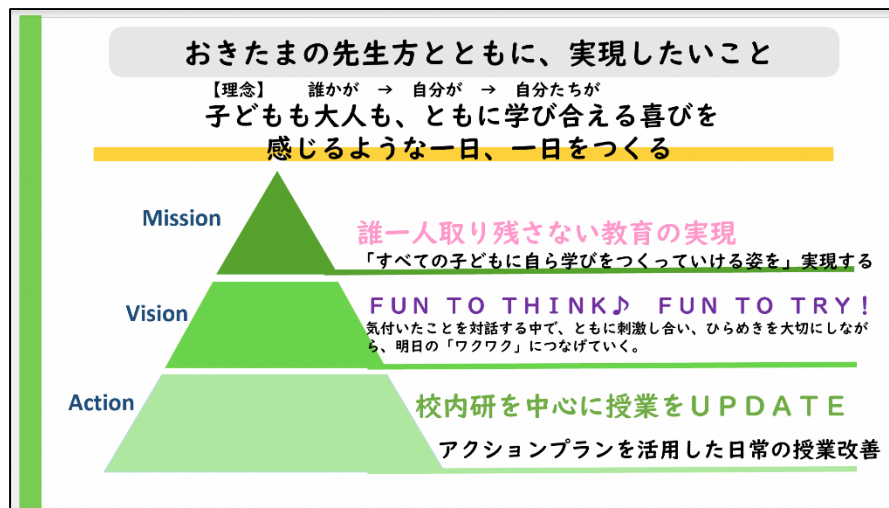


FUN TO THINK♪ FUN TO TRY!

「すべての子どもに自ら学びをつくっていける姿を」実現していきましょう

～令和7年度 置賜教育事務所が 先生方とともに実現したいこと～

今年度、置賜教育事務所では、「おきたまの教育」でお示した指針について、先生方とともに実現したいことを下の図のようにまとめました。



5月20日（火）に開催した資質・能力向上研究協議会に参加された先生方（36名）へお伝えしたところです。

授業でも研修でも、あらゆる学びの場で、子どもも大人も対話を通して考えることを楽しむ姿（「FUN TO THINK♪ FUN TO TRY!」）が、たくさん見られる1年間にしていくことができればと思います。

協議会では、「学びを委ねるとはどういうこと？」についてじっくり対話する時間を設けました。「学び」とは何か？「自ら学び続ける力を育むために教師にできること」は何か？自分の軸を持つためのすてきな時間になったのではないかと思います。

演習は4つのグループに分かれて行いました。それぞれの必要に応じて演習を選択し、主体的に学ぶ先生方の姿は、まさに子ども達とともに実現したい学びの姿でした！



令和7年度「伴走型支援」4大事業のご紹介

先生方といっしょに悩み、いっしょに始める。そんな伴走支援を大切にします。

「トライ訪問」事業

今年度は、5月末より訪問をスタートしました。「いつもの授業」を参観し、先生方の悩み等に寄り添った対話を行う、個人ベースの伴走型支援です。指導案の検討や、単元内自由進度学習等の気になる授業スタイルに関する相談など、幅広く対応しております。

「英語発信力向上実践推進」事業

昨年度まで「英語教育実践リーダーを育成する」ことを目的としていた本事業も、今年度から実践推進校2校への伴走型支援へと形を変えました。

【令和7年度実践推進校】

- ★長井市立伊佐沢小学校
- ★高畠町立高畠中学校

「誰Pパイロット校」事業

今年度の「誰一人取り残さない授業づくりプロジェクト(誰P)」は、1年間、管内2校のパイロット校に教育事務所の指導主事が継続的に伴走し、校内研究の充実と理念「すべての子どもに自ら学びをつくっていきける姿を」実現できるように協働で研究を推進していきます。

【令和7年度 誰Pパイロット校】

- ★高畠町立亀岡小学校
- ★長井市立長井北中学校



「教科担任マイスター」事業



今年度も「教科担任マイスター」事業がスタートしました。高学年算数科の教科担任制を実施する管内10校のマイスター校で、学習指導の UPDATE に向けて実践を積み重ねていきます。視点は、算数科の教科研究と ICT の効果的な活用です。

今年度は重点校(長井小・小松小)を拠点に、重点校と配置校の教科担任マイスター、県教委指導主事とで協働研究を行います。その様子も随時発信します♪

5月14日、長井小で第1回目のアドバンス研修を開催しました。長井小の校内研究やアドバンス研修の目的について、配置校マイスター及び長井小の全職員で確認しました。学校全体の共通理解のもとで事業が推進できることを、心強く思います。1年間よろしくお願いします。



第1回 置賜地区いじめ・不登校防止連絡協議会

“チーム学校”としていじめに向き合うために～重大事態化をさせない初期対応について～
神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男 先生

今年度、第1回置賜地区いじめ・不登校防止連絡協議会をアクティー米沢を会場に実施いたしました。今年度は、「“チーム学校”としていじめに向き合うために～いじめを重大事態化させない初期対応について～」の演題でご講演をいただきました。

研修では、豊富な経験に基づいた事例を交えながら、リスクマネジメント、クライシスマネジメント、そして、再発防止のためのナレッジマネジメントについてわかりやすくご解説いただきました。多忙な学校現場において同様の事案を未然に防ぐための具体的な工夫を学ぶことができました。

研修資料には、ナレッジマネジメントとして振り返りの項目があります。各学校の実情に応じて研修会で活用いただき、学校のいじめ防止基本方針の見直しの際にご活用下さい。



*ご参加いただいた先生方の感想から（抜粋）



話を“きく”ときには、「聞く」「聴く」「訊く」の中で「訊く」が大切だということを学びました。また、生徒指導に当たる際に「①何したの？②どうなった？③どう思った？④どうする？⑤これからどうする？」（5つの質問用紙）と子どもたちに決定権を与える質問の仕方がとても参考になり、実践していきたいと思いました。（小学校教諭）

あらためて「保護者への報告義務」の大切さを痛感しました。法化社会において忘れてはならない認識であるということを再確認させられました。社会における様々ないじめ等の事例を知り、その前例から「ナレッジマネジメント」の意識を高める必要があると感じました。現在、発達障害の生徒も増えている中で、「5つの質問用紙」は非常に有効だと感じました。

重大事態については、保護者が訴えた場合は100%重大事態になるとわかりました。逆を言えば、普段から保護者との良好な関係性を築いていくことで防げる可能性が高まるということも感じました。カギを握るのは保護者との関係なのですが、一方で保護者に気を遣いすぎ、子どもがないがしろになってはならないとも感じました。子ども同士は納得していても、保護者が納得いかずにもめるケースも多くあります。保護者との関係づくりは、今の時代だからこそ大切にしなければならないものだ改めて感じました。（中学校教諭）

